

Ἱερουσαλήμ

イエルーサレーム

知っておきたいキリスト教のことば (28)

エルサレム えるされむ

エルサレムはパレスチナ地方の都市の名前です。現在、ユダヤ教、イスラム教、そしてキリスト教という三つの宗教の聖地となっております。

ここには、ユダヤ教の嘆きの壁、イスラム教の黄金のドーム、キリスト教の聖墳墓教会などがあります。

さて、聖書の中でエルサレムが都となるのはダビデ王の時です。ダビデ王はエブス人を攻め落とし、王国を作り上げ、エルサレムを新しい都とします。

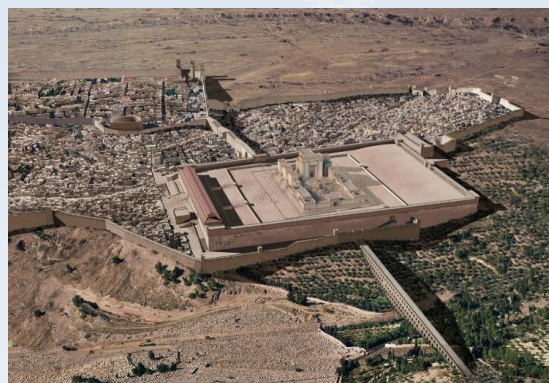
さらにダビデの子であるソロモン王は、エルサレムに神殿と宮殿を建設します。その結果、エルサレムは宗教と政治の中心地となります。

そして旧約聖書の中では、エルサレムは神に選ばれた町であり、聖なる都、救いの場所として描かれていくのです。

新約聖書でも、エルサレムは神さまの救済の舞台として書かれます。特にルカ福音書と使徒言行録、いわゆる「ルカ文書」の中では、その重要性が強調されます。イエス様は誕生のあとエルサレム神殿で献げられます。そしてイエス様の十字架だけでなく、復活、顕現、昇天、そして聖霊の降臨はすべてエルサレムでおこなわれます。福音が世界に伝えられていくのは、エルサレムからなのです。

イエス様の復活後、地上のエルサレムはその信仰的・神学的重要性を失っていきます。その背景には紀元 70 年のエルサレム神殿崩壊もあるのかもしれませんが。しかしわたしたちは、天のエルサレム、新しいエルサレムに希望を抱きつつ、神の国が来ますようにと祈り求めるのです。

次回は「黄金律」です。お楽しみに。



「1世紀のエルサレム」

ビジュアル聖書ソフト Glo より

また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。

(ルカによる福音書 24章 47～48節)

